



Prognostic role of interferon- λ 3 in anti-melanoma differentiation-associated gene 5-positive dermatomyositis-associated interstitial lung disease

メタデータ	言語: Japanese 出版者: 浜松医科大学 公開日: 2025-05-02 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 深田, 充輝 メールアドレス: 所属:
URL	http://hdl.handle.net/10271/0002000393

論文審査の結果の要旨

多発性筋炎（PM）と皮膚筋炎（DM）は、筋症状に加え皮膚や肺などの筋外症状を特徴とする自己免疫疾患である。間質性肺疾患（ILD）は PM/DM に高頻度に認められ（PM/DM-ILD）、その生命予後に大きな影響を与えるため、疾患重症度や予後を適切に評価できる指標の確立が望まれている。これまでに、抗メラノーマ分化関連遺伝子 5（MDA5）抗体が急性型 ILD の発症や死亡率に関連していることが知られている。しかし、抗 MDA5 抗体陽性 PM/DM-ILD の臨床経過は多彩であり、その予後予測マーカーは十分に開発されていない。

申請者は、インターフェロン- $\lambda 3$ （IFN- $\lambda 3$ ）に着目し、PM/DM-ILD における予後予測因子としての可能性を検討した。研究は 2 つのコホート（浜松コホート、検証コホート）からの患者を対象とした。本研究は浜松医科大学臨床研究倫理委員会の承認を得て実施された（承認番号：18-030）。PM/DM-ILD 患者 221 名の診断時血清と健常人 38 名の血清を用いて血清 IFN- $\lambda 3$ 値を測定し、臨床像や予後との関連を解析した。その結果、血清 IFN- $\lambda 3$ 値は PM/DM-ILD 患者においてコントロールと比べて有意に高値であった。またその中でも抗 MDA5 抗体陽性例でのみ高値であった。抗 MDA5 抗体陽性 DM-ILD 症例（79 例）において、血清 IFN- $\lambda 3$ の中央値（120 pg/mL）をカットオフ値とし、血清 IFN- $\lambda 3$ 高値群と低値群の 2 群で予後を比較解析すると、高値群は低値群と比較して有意に予後不良であった。予後因子解析により高齢（> 53 才）、PaO₂ 低値（< 75 Torr）、血清 IFN- $\lambda 3$ 高値の 3 つのリスクファクターを規定し、その保有数により 3 群に分け生存率を比較解析したところ、3 群において予後が層別化された。

審査委員会では、抗 MDA5 抗体陽性 PM/DM-ILD の予後予測因子としての血清 IFN- $\lambda 3$ の意義を明らかとした点を高く評価した。

以上により、本論文は博士（医学）の学位の授与にふさわしいと審査員全員一致で評価した。

論文審査担当者

主査 本田 哲也

副査 鈴木 哲朗 副査 小川 法良